

確かな学力と活用力の育成を目指す学習指導体制づくり －確かな知識の定着と活用力の向上を図る指導の工夫・改善－

I 研究主題に関わって

ここ数年で実施された各種の学力調査（「教育課程実施状況調査」「全国学力・学習状況調査」「PISA調査」）によると、今の子ども達の学力の現状として、基礎的・基本的な知識・技能は概ね身につけているものの、読解力にかかわる思考力・判断力・表現力などや、記述式問題を解くために必要な能力や学習態度に課題があるとしている。昨年3月に発表された新しい学習指導要領では、その点を反映して、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とそれらを活用する学習の充実を図り、「生きる力」を育むという基本的な考え方のうえに具体策がまとめられている。このことで学校教育は「ゆとり」から「詰め込み」という考え方ではなく、基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを現実生活の問題解決に活用していく思考力・判断力・表現力等を車の両輪として、相互に関連させながら伸ばしていくことが強く求められている。

このような状況の中で、研究テーマである「確かな知識の定着と活用力の向上を図る指導の工夫・改善」は、新学習指導要領の中で大きなポイントになっており、来年度から新しい学習指導要領への移行期間が始まる上で、本研究テーマは各学校が直面するであろう課題であり、「確かな学力と活用力の育成を目指す学習指導体制づくり」への学校長の関わりは重要であると考えられる。

II 研究の概要

1 研究計画

(1) 1年次（平成20年度）

- ア 研究テーマの共通理解と研究内容検討
- イ 研究テーマにおける校長の関わり
- ウ 各校の「生きる力」の育成を目指した教育実践事例について

(2) 2年次（平成21年度）

- ア 1年次の成果を生かした各校での研究テーマに関わる実践事例について
- イ 研究テーマにおける校長としての関わりについての成果と課題

2 研究内容

- (1) 研究テーマの「活用力の向上を図る指導」とは、どのような指導なのか、具体的なイメージを持つことが必要であるということから、学習指導要領の記述などを参考に各校の実践事例等意見交換をする中で共通理解を図った。「活用力の向上を図る指導」では、知識・技能の「習得」と「活用」との関係性を明らかにして、これら

を相乗的に育成する必要がある。考えられる指導としては、各教科で習得した知識・技能を「実生活の場面に関連する課題に活用」「各教科で活用」「総合的な学習で活用」するなどして、活用型の学力（思考力・判断力・表現力等）を育成することが大切である。これらの授業では、「記録・報告・説明・表現・記述・批評・論述・討論」などの具体的な学習活動が考えられる。これらは言語によってなされる学習活動であることから、学習活動に意識的に言語活動を取り入れることが大切であろう。言語活動を充実させることが、活用型学習活動を充実させることにつながると言えるのではないか。

(2) 研究テーマにおける校長としての関わりは以下のア～エの内容が考えられる。

ア 新学習指導要領の教職員への徹底

イ 教育課程の編成（学校経営・学校運営の明確化と特色ある教育活動の創造）

ウ 日常の授業実践，教育活動における教職員への指導による，「確かな知識の定着」と「活用力の向上を図る」指導体制の充実

エ 言語環境の整備・充実

(3) 上記の内容に校長として関わるには、これまで各学校で取り組んできた「生きる力」の育成を目指した教育活動についての理論的、実践的な蓄積が大きな力となる。その意味で現行学習指導要領における「生きる力」の育成を目指して各校で取り組まれた授業実践や教育活動の実践事例をまとめることは、大きな意味を持つと考えた。そこで、「生きる力」の育成を目指した各校の教育実践について、レポート提案による実践事例の発表を行った結果、これまで「自ら考え判断し、自ら課題を解決する子どもの育成」を目指した各校の授業実践をベースとして考えることが、本研究テーマに迫る上で重要であることを確認した。

Ⅲ 成果と課題

研究テーマの共通理解を図る中で、「活用力の向上を図る指導」とはどのような指導であるか意見交換をする中で、各教科における「活用力を図る指導」のイメージが概ね掴めたことは、今後の具体的な指導に生かすことができるであろう。「確かな知識の定着」は「活用力の向上」を支える基盤であり、また「活用力の向上」を図ることは「確かな知識の定着」をより確実なものにする事にもつながり、この両者は「生きる力の育成」を支えるものであり、両者が総合的に培われる中で、「生きる力」はしっかりと育まれるものであると言える。「生きる力の育成」は、これまでも各校の教育活動の中で追求されてきた重要な視点である。したがって、「活用力の向上を図る指導の工夫・改善」は、新しい指導の形態を考えるとというのではなく、これまでの生きる力の育成をめざし培ってきた質の高い指導実践を、「活用力の向上を図る指導の工夫・改善」という視点から改めて見直し、工夫・改善を図っていくことが大切である。また、直接、授業に関わりの少ない校長としては、研究テーマに迫る学校経営、学校運営の明確なビジョンを教職員に提示する中で、校長としてのリーダーシップを発揮することが必要である。

(部長 武井茂光)